

埼玉県立文書館における展示事業のあゆみ

本館では、昭和44年4月に県立図書館の内部組織として設置されて以来、収蔵文書を広く県民に紹介し、その活用の促進を図るとともに、文書館そのものに対する理解を深めるため、積極的に展示活動を行ってきた。

文書群を対象とした調査研究の成果が文書目録の刊行であるとするならば、展示やその解説書は、収蔵文書を一定のテーマに従い選択し、調査研究を加えた成果といえる。

展示の実施方法については、施設的な面から昭和44年4月から58年3月までの県立浦和図書館内の旧館時代と、現館舎に移った昭和58年4月以降に大きく2つに分けられる。

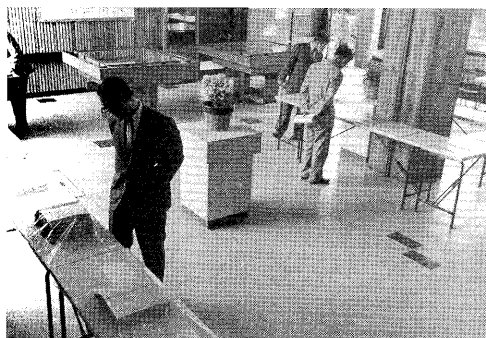
【旧館時代】

県立図書館内の旧館時代には、専用の展示施設はなく、文書館のエントランスロビーを活用した常設展示と、図書館のホールを利用した年1回の特別展示があった。エントランス・ロビーには、木製の大型覗きケースが置かれていた。図書館ホールには、展示用の設備はなく、大型の絵図などは壁面に、一般の文書は会議机の上に展示し、観覧者から保護するため、透明なビニールシートで覆いをした簡単なものであった。

最初の特別展示は文書館落成記念展で、行政文書や一部借用を含む古文書を展示した。その後、昭和47年まで、当時図書館で編さんが進められていた埼玉県教育史関連や、図書館創立50周年記念、隣接する埼玉会館を会場とした地方史研究協議会埼玉大会記念など、文書館と関連する事業の記念展として取り組まれたものであった。第1回から5回までは、当初から付けられた回数ではない。

文書館が計画的に特別展を実施するようになるのは、通算6回目にあたる昭和48年の「埼玉の用水文書展」からで、B5・4頁のリーフレットも作成されるようになった。同年秋からは、「県民の日記念文書展」と銘打ち、

11月14日の県民の日を挟んで毎年1週間程度開催された。展示資料はほぼ収蔵文書でまかない、第11回展までは行政文書目録などの刊行に合わせた企画が多くみられ、古文書・行政文書がバランスよく並んでいる。それに対して昭和53年の12回展から5回続いて古文書（近世）がテーマとなり、偏りがみられるようである。旧館時代のこの特別展（県民の日記念展）のテーマは、新館に移ると、収蔵文書展としてたびたび活用されることになる。第13回の後北条氏展は、展示としては埼玉会館と共催であるが、文書館としては「古文書所在確認調査」の完了記念展の意味もあった。この展示の経験をもとに、新館における戦国武将シリーズの構想が出てくる。



文書館落成記念「埼玉の文書展」展示風景

このほかに、昭和54年6月には、埼玉県議会100年記念「資料で見る議会百年展」が、県議会と県教育委員会の共催で、図書館ホールで開かれ、行政文書が多数展示されている。

旧館時代の常設展示は、入口ロビーを会場としたささやかなもので、行政文書はテーマ、古文書は文書群単位の場合が多い。おそらく、開館以来なんらかの展示がなされていたものと思われるが、内容が明確にわかるのは、昭和50年4月の条例設置後のことである。回数は、年に3回、ほぼ4か月のローテーションで行われ、リーフレットも謄写版やタイプ印刷の簡単なものであった。

【新館（現館舎）時代】

昭和58年6月1日に、現在の独立館舎が開館すると、展示は施設的にも格段の充実をみた。造り付けケースを備えた153平方メートルの専用の展示室が1階にでき、覗きケースや立ち見ケースも特注の備品が整えられた。現在、展示室が館の入口から極めて奥まったところにあり、入館者に不自然な印象を与えているが、開館当初は1階に情報公開を実施する公文書センターの窓口があり、その奥が展示室になっていた。平成9年に情報公開制度の変更により公文書センターの移転後は、そのスペースが県庁各課の事務室として使用されてきた。平成17年度にこの部分が「パネル展示コーナー」として改装されたが、それも1年だけで再び事務室となっている。

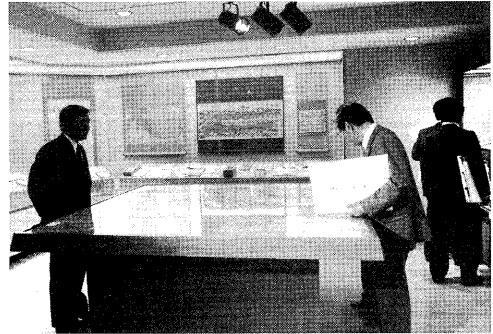
（特別展示） さて、新館における展示の内容に移ろう。基本的には、旧館時代と同様に、特別展示と収蔵文書展であるが、そのいずれにも分類されない展示もいくつかあり、適宜、両者の中で説明する。なお、おのおのの回数については、途中で表記方法が変更されているので、今回改めて整理し、通し回数で記した。

まず、特別展示の回数には入っていないが、昭和58年6月に、新館落成記念展を開催した。これは、収蔵している各文書群から代表的な文書を1点づつ選び出し、それらを時代と内容を加味して配列し、収蔵資料の全容が分かるようにした展示である。

特別展示は、県民の日記念展示を引き継いだもので、昭和58年度には「戦乱の世と文書」と題し、県内外から資料を借用し、1か月の展示となった。このように会期が大幅に増加したことを踏まえ、つぎの59年度からは「県民の日記念」の冠をはずし、「特別展示」とし、平成3年まで8年間続いた。

第18回の「埼玉の仏教文化」は、5年間にわたる埼玉県寺院聖教文書遺品調査の成果を展示したものである。第19回から23回の5回は、県域で活躍した戦国武将の発給文書を、武将ごとに体系的に紹介したシリーズである。中

世文書の原本については、専門の研究者でもこうしてまとめて見られる機会は少なく、専用の展示室をもつ文書館ならではの企画で、当時重要文化財であった上杉家文書なども借用展示した。第24回は以降は、近世・近代に移り、関東郡代として活躍した伊奈氏の文書や、埼玉県成立期の文書を幅広く展示した。



「新館落成記念文書展」の展示風景

この特別展示で特筆されるのは展示解説書で、第17回では12頁のリーフレットと20頁の解説文、18～25回ではさらに充実させ、1点ごとに写真と解説を収録し、56～70頁となった。こうした解説書は、「読めないから古文書の展示はつまらない」という声に対応したもので、膨大な解説キャプションを委託作成するより経費も少なく、展示空間もスッキリし、観覧者が自宅に持ち帰り参考文献として活用できるなど、大きな利点があった。

なお、特別展示の数には入れてないが、昭和62年11月には、文書館のエントランス入口の床面に埼玉県の成立過程の彫刻を施したことを記念して、「絵図と地図にみる”埼玉県の成立”」を開催した。

（収蔵文書展） 収蔵文書展は、新館当初は常設展示と呼んでいたものである。収蔵文書を一定のテーマに基づき展示するもので、文書館にとってはもっともオーソドックスな展示といえる。新館に移った昭和58年は1回、翌59年からは年2回で、ほぼ1月～5月、6月～10月と年度をまたがって開催された。このほか特別展が1か月あるので、展示替えの

期間を除くと展示室はほぼ常時開かれていたことになる。各回のテーマの設定の仕方は、昭和58年8月の第1回から平成4年6月の19回までは、同じテーマで2回続くことはあっても、シリーズは設けず、毎回担当者がテーマを独自に設けていた。主として古文書課が担当したこともあり、近世関係が13、近代が2、近世・近代が4、と圧倒的に近世の比重が高かった。しかも学校教育との連携を考え、近世の開発や教育に関する内容が多かった。さらに、第4回からは、「新収蔵文書コーナー」と「古文書解説コーナー」を設け、最新情報を伝えるとともに、講座の補完を図った。前者は中断もあるが平成5年の21回まで、後者は13回まで続いた。

平成4年11月から始まる第20回「さいたまの地図」が、大きな転換期になった。この展示は、地図センターの開設を記念するものであったが、平成4年から無くなった特別展示も兼ね、翌年2月まで開催された。平成5年度からは特別展示の分も含め年3回の収蔵文書展となった。この年は新館10周年を記念して、中世・近世・近代と、時代ごとに収蔵文書を一堂に展示した。平成6、7年度も各3回の収蔵展を開催したが、そのうち2回の近世文書では、地域別の文書紹介シリーズを開始し、文書群の特色を捉えたテーマを設定して展示した。残り1回は、行政文書を中心とした近代の展示となった。

平成8年度も新たな展示を求める模索が続き、5月には館収蔵の中世文書5件が新たに県文化財に指定された記念の特別公開を行った。また、6月から9月までは、常設展示をめざしたテーマ展「みる・よむ・しらべる一彩の国の文書」を開催した。収蔵文書展は古文書・行政文書各1の合計2回となった。翌9年度も同様の展示を行い、10年度からは「みる・よむ・しらべる一彩の国の文書」の内容を圧縮し、展示室の半分をパーティションで仕切り常設展示とした。この間の経緯については、白井哲哉氏「文書館普及活動における二つの試み」(『埼玉県立文書館紀要』

第11号)に詳しい。これにより、収蔵文書展は残り半分のスペースで年2回開催する方式となり現在にいたっている。

収蔵文書展の解説リーフレットは、当初はB5判2～8頁であったが、第4回以降は12頁、ときにはそれを超えることもあった。平成6年の第24回からA4判となり、12～16頁で第41回まで続いた。しかし、第42回以降は4頁に減少し、展示解説というよりは目録だけになってしまったが、目録部分を別刷のコピーにするなど図版・解説部分の確保に努めている。今年度の第51回展から再び通し番号を採用し、行政文書の県文化財指定記念ということで、久々にカラー12頁になった。

平成10年度から開始された常設展示については、基本的には第31回収蔵文書展で確立した構成を変えず、資料の差し替え程度で維持してきた。しかし、平成15年度頃からテーマ性をもたせるようになり、「浦和」(7～10月)、「さいたま市の文書」(10～2月)、16年度は「教科書に出てくる資料展」(11～2月)、17年度は「中山道沿いの地域の歴史を探る」(11～2月)、「岩槻ゆかりの文書」(3～6月)、18年度は「日光御成道ゆかりの資料」(7～10月)など、政令指定都市さいたま市の成立や「彩の国教育の日」に因んだ内容を織り込んだ。技法的には、急速に普及したデジタルカメラを用い写真パネルを多用した展示が、わかりやすい展示として好評であった。また、第43回の「行政情報史の130年」で取り組んだインターネット上での同時開催や、第47回「埼玉国体メモリアル写真展」での国体総務課等と協力し、県庁渡り廊下や「そごう大宮店」などでの出張展示も新たな取り組みであった。51回収蔵文書展では、9年ぶりにパーティションを取り払ってみた。

展示室は、文書館の機能と膨大な量の収蔵資料を分かりやすく入館者に紹介する「ショウ・ウィンドウ」ともいふべき場所である。これまでの経過を踏まえ、新しい時代に向かってさらに改善を積み重ねていく必要がある(重田正夫記)。

これまでの文書展の概要

凡例

- 1 括弧付きの回数は、展示解説書等には記載なく、今回の整理で付したものである。
- 2 記載内容は、回数、名称、開催期間、および展示概要・構成である。

第1部 旧館時代

(1) 特別展示

(第1回) 文書館落成記念展示会

「埼玉の文書展—古文書・行政文書—」

昭和44年5月10日～5月15日

中世・近世の古文書と明治の行政文書など、一部借用資料を含め展示

(第2回) 「埼玉の教育文書展—明治前期—」

昭和45年2月21日～2月27日

埼玉県教育史編さんに絡む展示

①郷学校 ②教育財政 ③小学校 ④中学校 ⑤師範学校 ⑥医学校 ⑦私立学校 ⑧教育会 ⑨書籍館

(第3回) 第26回郷土資料室展示

「埼玉の古文書展」

昭和45年10月6日～11月8日

地方史研究協議会全国大会にあわせ埼玉会館と共催、県下各地の中世文書を一堂に展示

(第4回) 「埼玉県教育史資料展」

昭和45年10月10日

埼玉大学教育学部教育学研究室と共催
教育関係の公文書を展示

(第5回) (県立図書館) 創立50周年記念

「埼玉の交通文書展—近世—」

昭和47年9月29日～10月3日

会田家、野中家など収蔵古文書から、近世の宿駅・助郷・水運関係古文書を展示

第6回文書館文書展

「埼玉の用水文書展—近世—」

昭和48年6月1日～6月5日

見沼土地改良区文書など収蔵古文書から、近世用水関係の絵図・古文書を展示

第7回文書館文書展・県民の日記念

「埼玉の古絵図展」

昭和48年11月13日～11月18日

収蔵する各種の古絵図を一堂に展示

第8回文書館文書展・県民の日記念

「埼玉の交通文書展—近代—」

昭和49年11月13日～11月17日

①鉄道 ②郵便馬車・馬車鉄道 ③道路
④舟橋・賃取橋 ⑤舟運

第9回文書展・県民の日記念

「埼玉の伝統産業文書展—近世～近代—」

昭和50年11月12日～11月16日

①鋳物 ②茶 ③養蚕・絹織物 ④木綿織物・足袋 ⑤紙漉 ⑥伸銅 ⑦紅花
⑧藍 ⑨(物産)統計

第10回文書展・県民の日記念

「埼玉の社寺絵図展」

昭和51年11月12日～11月17日

『行政文書件名目録 社寺編』の刊行をうけて、明治・大正期の社寺関係行政文書の添付資料として保存されてきた境内絵図を郡域別に展示

第11回文書展・県民の日記念

「地方金融資料展—近代—」

昭和52年11月11日～11月16日

埼玉銀行寄贈資料を中心に展示

①銀行のあけぼの—川越第八十五国立銀行の誕生 ②続々と設立—私立銀行・銀行類似会社乱立 ③埼玉中央銀行の設立計画—武州銀行発足 ④4行の併立—武州・忍商業・飯能・第八十五銀行 ⑤一県一行が決定—埼玉銀行の登場

第12回文書展・県民の日記念

「埼玉の災害と飢饉文書展—近世—」

昭和53年11月11日～11月16日

①元禄・享保期の災害 ②寛保の水害
③天明の浅間山噴火と飢饉 ④享和の水害 ⑤文政の早魃 ⑥天保の飢饉と救恤
⑦弘化の水害 ⑧安政の大地震 ⑨安政

の水害

(第13回) 郷土資料室第83回展示

「戦国期の埼玉 後北条氏展」

昭和54年11月3日～12月2日

埼玉会館郷土資料室との共催、昭和48～52年度に実施した古文書所在確認調査の成果を展示

①北条五代と武蔵国への侵攻 ②支城体制の確立 ③村落と農民 ④家臣団の編成と軍役 ⑤寺社の保護と信仰 ⑥産業と文化 ⑦小田原城の落城と後北条氏

第14回特別文書展・県民の日記念

「古文書にみる江戸時代庶民の旅」

昭和55年11月12日～11月18日

①旅と交通制度 ②伊勢参宮と西国巡礼 ③東国の札所と名所 ④湯治の旅

第15回特別文書展・県民の日記念

「埼玉の村絵図展」

昭和56年11月12日～11月18日

①村絵図 ②用水絵図 ③裁許絵図 ④組合村絵図

第16回特別文書展・県民の日記念

「村のくらし—江戸時代の生産と生活—」

昭和57年11月13日～11月21日

①土地と年貢 ②村落と生産 ③家と生活

(2) 常設文書展

昭和50年

「埼玉の新聞展 (明治期)」

「青山文庫展 (地誌)」(5月～8月)

「法華寺文書展」(8月～9月)

「秩父事件史料展」(11月～1月)

昭和51年

「明治期の教科書展」(2月～4月)

「見沼代用水文書展」(8月～9月)

「修験文書展」(9月～12月)

昭和52年

「藤井家コレクション展」(1月～4月)

「幕末庶民文化史料展」(5月～8月)

「根岸友山・武香展」(9月～12月)

昭和53年

「明治期における埼玉の鉄道展」(1月～

4月)

「埼玉の中世文書展」(5月～8月)

「大正期の教育文書展」

昭和54年

「飯野家文書展」

「会田家文書展」(5月～9月)

「昭和期の教育文書展」(9月～12月)

昭和55年

「近世の庶民教育資料展」

「平山家文書展」

「埼玉県の成立」(9月～12月)

昭和56年

「近世の古文書展 I—検地—」(1月～3月)

(3) その他

1 「資料で見る議会百年展—埼玉県議会100年記念—」

昭和54年6月24日～6月28日

明治・大正期は文書館の行政文書と議会図書室の資料を中心に、戦後は浦和図書館の資料も加え、ほぼ年代順に展示

第2部 新館(現館舎)時代

(1) 特別展示

第17回特別展・昭和58年度県民の日記念

「戦乱の世と文書」

昭和58年11月1日～11月29日

新館最初の大規模展示

①南北朝・室町時代 ②戦国時代(戦争と文書、治世と文書)

(第18回) 昭和59年度特別展示

「埼玉の仏教文化—写経と古文書—」

昭和59年10月20日～11月25日

県下の寺院文書調査の成果を展示

①写経と曼荼羅 ②中世文書と頂相

③徳川家康と高僧 ④本末制度と古文書

(第19回) 昭和60年度特別展

「鉢形城主北条氏邦文書展」

昭和60年11月11日～12月10日

戦国武将文書展シリーズの第1回

①在地土豪の掌握 ②家臣団の編成と軍役 ③上州侵攻と落城

(第20回) 昭和61年度特別展

「八王子城主北条氏照文書展」

昭和61年11月1日～12月7日

戦国武将文書展シリーズの第2回

- ①八王子領の掌握 ②下総・下野への進出 ③八王子城と豊臣侵攻 ④戦国諸将と氏照

(第21回) 昭和62年度特別展

「岩付城主太田氏文書展」

昭和62年10月24日～11月29日

戦国武将文書展シリーズの第3回

- ①岩付太田氏の全盛 ②後北条氏の岩付領支配 ③太田氏房の治世 ④常陸片野の三楽齋父子と岩付

(第22回) 昭和63年度特別展

「古河公方文書展」

昭和63年10月29日～11月27日

戦国武将文書展シリーズの第4回

- ①足利政氏—鎌倉公方から古河公方へ— ②足利基氏・高基—公方家の内紛と動揺 ③足利晴氏—後北条氏の進出と公方家の終焉 ④古河公方の家臣

(第23回) 平成元年度特別展

「北武蔵の戦国武将文書展」

平成元年10月28日～11月26日

戦国武将文書展シリーズの第5回

- ①河越城主扇谷上杉氏 ②松山城主上田氏 ③忍城主成田氏 ④羽生城主木戸氏 ⑤深谷城主疋鼻和上杉氏 ⑥御嶽城主安保氏・長井氏 ⑦鷲宮神主大内氏

(第24回) 平成2年度特別展

「関東郡代伊奈氏文書展」

平成2年10月20日～11月18日

- ①伊奈備前守忠次 ②伊奈半十郎忠治 ③伊奈氏の河川改修 ④伊奈氏の陣屋支配

(第25回) 平成3年度特別展

「近代埼玉の黎明—廃藩置県とその時代—」

平成3年10月26日～11月24日

埼玉県誕生120年を記念した展示

- ①埼玉県の成立 ②県域の変遷

(2) 収蔵文書展

(第1回) 常設文書展

「古文書にみる江戸時代の埼玉」

昭和58年8月1日～10月16日

- ①土地と年貢 ②村と生活 ③キリスト教の禁止 ④生産と生業 ⑤庶民の教育

(第2回) 昭和59年常設展示

「文書にみる埼玉の歴史—うつりゆく庶民の旅—」

昭和59年1月18日～5月6日

- ①近世庶民の旅 ②旅を支えるしくみ ③近代の交通

(第3回) 昭和59年常設展示

「文書にみる埼玉の歴史—うつりゆく庶民の旅 2—」

昭和59年6月1日～9月29日

- ①近世庶民の旅(秩父札所、参詣の旅、往来手形、湯治の旅) ②近代の交通(高崎線・東北線の開通、幻の鉄道、馬車鉄道、渡船と船橋)

(第4回) 昭和60年収蔵文書展

「文書にみる埼玉の教育—寺子屋から学校教育へ—」

昭和59年12月15日～60年5月19日

- ①近世の庶民教育(寺子屋、手習、往来物、算法、心学) ②明治初頭の学校教育(教育行財政、小学校、中学校、その他の学校) 新収蔵資料紹介 古文書解説コーナー

(第5回) 昭和60年収蔵文書展

「文書にみる埼玉の教育2—近世庶民教育から近代中等教育—」

昭和60年6月8日～10月12日

- ①近世庶民教育(寺子屋、私塾、藩校) ②近代の教育(義務教育、中学校、高等女学校、実業学校、社会教育) 新収蔵文書紹介、古文書解説コーナー

(第6回) 昭和61年収蔵文書展

「文書にみる埼玉の開発—水とのたたかい—」

昭和61年1月18日～5月30日

- ①水とのたたかい(たびかさなる洪水、洪水後の救済、中条堤と大囲堤、流路変

更と治水) ②近代の河川改修(改修への努力と河川法、明治43年の大洪水、利根川荒川の改修、13河川の改修) 新収蔵文書紹介 古文書解説コーナー

(第7回) 昭和61年収蔵文書展

「文書にみる埼玉の開発2—用水をひらく—」

昭和61年6月21日～10月11日

①備前渠用水 ②見沼代用水 ③葛西用水 ④野火止用水 ⑤大里用水(六堰) 新収蔵文書紹介 古文書解説コーナー

(第8回) 昭和62年収蔵文書展

「諸国寺社朱印状展1 武蔵国(埼玉県域)」

昭和62年1月17日～4月18日

西角井家文書の諸国寺社朱印状のうち、埼玉県域の31寺社分と文書館収蔵の朱印状を展示 新収蔵文書紹介 古文書解説コーナー

(第9回) 昭和62年収蔵文書展

「文書にみる村の暮らし」

昭和62年5月23日～9月27日

①禁令と支配 ②検地と貢租 ③村役人と農民 ④農業と農間余業 ⑤信仰と娯楽 ⑥組合村 新収蔵文書紹介 古文書解説コーナー

(第10回) 昭和63年収蔵文書展

「諸国寺社朱印状展2 武蔵国(御府内)」

昭和63年1月23日～4月16日

第8回に続き、西角井家文書諸国寺社朱印状のうち江戸御府内の31寺社分と文書館収蔵の関係絵図 新収蔵文書紹介 古文書解説コーナー

第11回収蔵文書展

「近代の教科書」

昭和63年6月4日～10月9日

①「学制」の発布と翻訳教科書 ②復古主義から検定制度へ ③国定教科書の成立と改訂 ④戦時体制下の教科書 ⑤戦後の混乱と教科書 新収蔵文書紹介 古文書解説コーナー

第12回収蔵文書展

「みくだり半—江戸時代の家と女性—」

平成元年1月17日～4月16日

①様々な離縁状 ②離縁の手続き ③妻方からの離縁状 ④理想とされた女性像 新収蔵資料紹介 古文書解説コーナー

第13回収蔵文書展

「農村の知識人たち 奥貫友山・井上淑蔭・林信海」

平成元年6月3日～10月8日

①奥貫友山 ②井上淑蔭 ③林信海 ④信海と淑蔭 新収蔵文書紹介 古文書解説コーナー

第14回収蔵文書展

「村絵図」

平成2年1月20日～4月15日

①村と村々絵図 ②村絵図のいろいろ ③各地の村絵図 ④村絵図の作成 新収蔵文書コーナー

第15回収蔵文書展

「黒船来航・村々への情報と影響」

平成2年6月16日～10月3日

①公的情報 ②市井の印刷情報 ③現地での見聞・鈴木久兵衛 ④様々なルートから ⑤村々への負担 ⑥寺社の動き

第16回収蔵文書展

「鉄道素描 近代埼玉の軌跡」

平成3年1月19日～4月7日

①日本鉄道 ②その他の主な鉄道 ③幻の鉄道 ④馬車鉄道 行政文書紹介コーナー

第17回収蔵文書展

「旗本稻生家の文書—幕府官僚の職務と生活—」

平成3年6月15日～10月6日

①家格と格式 ②知行地とその支配 ③幕府官僚の職務 ④生活と年中行事 ⑤幕末維新への対応 新収蔵文書紹介 古文書にみる太平記の世界

第18回収蔵文書展

「東部低地 北葛飾郡域の暮らしと文書」

平成4年1月18日～4月12日

①地域のような ②たび重なる洪水 ③水防と普請 ④用悪水とその管理 ⑤舟運と産業 ⑥村の生活と文化

「歴史資料」(収集行政文書)紹介 新
収蔵文書コーナー

第19回収蔵文書展

「天変地異—文書にみる近世埼玉の災害—」

平成4年6月20日～10月4日

①浅間山焼 ②飢饉と干魃 ③大水 ④
安政大地震 新収蔵文書コーナー

第20回収蔵文書展・県民の日記念

「さいたまの地図」

平成4年11月7日～平成5年2月14日

地図センター開設を記念した展示

①近世の絵地図(古文書群に含まれる)
②近代の地図(行政文書の添付図を中心)
③現代の地図(県や市町村作成図)

(第21回)平成5年度第1回収蔵文書展

「さいたまの文書—近世—」

平成5年6月26日～9月26日

新館10周年記念展示 その1

①武家文書 ②地方文書 ③寺社文書
新収蔵文書コーナー

(第22回)平成5年度第2回収蔵文書展・県
民の日記念事

「さいたまの文書—中世—」

平成5年11月6日～12月5日

新館10周年記念展示 その2

安保文書をはじめ当館が収蔵する28群の
中世文書を家単位に展示

(第23回)平成5年度第3回収蔵文書展

「さいたまの文書—近代—」

平成6年1月22日～4月10日

新館10周年記念展示 その3

①明治(埼玉県の設置～地方自治の拡大、
文明開化と自由民権、帝国憲法の発布～
明治の終焉) ②大正(大正デモクラシ
ー～関東大震災) ③昭和(恐慌～戦時体
制、教育文書にみる戦時体制、戦時体制
資料(ビラ・チラシ等))

(第24回)平成6年度第1回収蔵文書展

「北足立地方の文書1—西角井文書—」

平成6年6月25日～9月4日

収蔵古文書を地域別に紹介するシリーズ
の第1回、武蔵一宮氷川神社の神主西角

井家文書の紹介

①氷川神社の由緒と社格 ②社領の経営
③神職と西角井家 ④祭礼 ⑤造営修復
と富突興行 ⑥氷川講(太々講) ⑦明
治天皇の行幸と氷川神社

(第25回)平成6年度第2回収蔵文書展

「北足立地方の文書2—会田家文書—」

平成6年10月15日～12月18日

大門宿本陣・紀州鷹場鳥見の会田家文書
の紹介

①会田家の歴史と文書 ②紀州鷹場と鳥
見役 ③鷺山と紀州殿国驚 ④日光御成
道と大門宿 ⑤村々の生活

(第26回)平成6年度第3回収蔵文書展

「近代”彩の国”つくり—拓く・架ける・
築く—」

平成7年1月21日～4月9日

県行政文書土木部文書を中心に展示

①土木課の創設 ②橋を架ける ③堤防
を築く ④公園の誕生 ⑤近代建築展望

(第27回)平成7年度第1回収蔵文書展

「入間地方の文書」

前期・6月24日～9月10日

荒川流域の林家と奥貫家文書の紹介

後期・9月16日～12月3日

台地丘陵の平山家と堀口家文書の紹介

(第28回)平成7年度第2回収蔵文書展

「市町村合併」

平成8年1月20日～4月7日

明治初期から昭和30年前後に至る市町村
合併

①町村制施行前の合併 ②町村制の実施
と合併 ③市の誕生と戦時下の合併
④町村合併促進法と合併

(第29回)平成8年度第1回収蔵文書展

「比企地方の文書—景観とひとの暮らし—」

平成8年9月21日～11月17日

①比企地方を調べよう ②低地のくらし
—あふれる水と大囲堤 ③丘陵地のくらし—
水の活用 ④山地のくらし—森林と
の共生 ⑤古文書にみる世相・世情

(第30回)平成8年度第2回収蔵文書展

- 「近代埼玉地誌遊覧—彩りのマップ&ガイド—」
平成9年1月18日～4月6日
①近代の地誌編さん ②行政と地誌資料
③描かれた埼玉 ④学びの地誌 ⑤外国人の見た明治の埼玉 ⑥彩の国からの旅
(第31回) 平成9年度第1回収蔵文書展
「みる・よむ・しらべる—彩の国の文書—」
平成9年5月7日～9月14日
この内容を圧縮して、平成10年度から常設展示を実施
① 残された中世文書 ②古文書のすがた、その伝え方 ③村の公文書の消滅
④行政文書と埼玉県立文書館 ⑤河川台帳附図 ⑥歴史資料 ⑦地形図 ⑧埼玉県作成図 ⑨市町村作成図 ⑩埼玉全県航空写真 ⑪貴重な史料の活用のために
⑫新収集文書
(第32回) 平成9年度第2回収蔵文書展
「秩父・児玉地方の文書」
平成9年10月18日～12月14日
①山に生きる ②秩父往還 ③若林嘉陵
④中山道本庄宿 ⑤川とのたかひ
⑥助郷 ⑦新時代の幕開け ⑧秩父・児玉地方の中世文書
(第33回) 平成9年度第3回収蔵文書展
「文書でみる埼玉のイベント」
平成10年1月24日～4月5日
①勸業のイベント ②埼玉県商品陳列所
③行幸啓 ④行政のイベント ⑤スポーツのイベント ⑥生活・文化のイベント
(第34回) 平成10年度第1回収蔵文書展
「大里地方の文書 友山と武香—青山根岸家文書の世界—」
平成10年10月24日～12月20日
①根岸家の歴史 ②豪農根岸家 ③三余堂と振武所 ④友山と治水 ⑤尊皇攘夷志士友山と新徴組 ⑥考古学者武香とモース ⑦百穴の保存 ⑧新編武蔵風土記稿の出版
(第35回) 平成10年度第2回収蔵文書展
「文書にみる文明開化」

- 平成11年2月2日～3月28日
①開化情報の発信 ②暮らしの洋風化Ⅰ
③暮らしの洋風化Ⅱ ③交通・通信の開化 ④小学校教育の始まり
(第36回) 平成11年度第1回収蔵文書展
「殖産興業の時代」
平成11年10月23日～12月19日
①富岡製糸場への対応 ②養蚕・製糸の奨励と取締 ③製糸会社の設立 ④製茶会社の設立と輸出 ⑤勸業への諸施策
⑥金融機関の近代化
(第37回) 平成11年度第2回収蔵文書展
「大里地方の文書Ⅱ リーダーの条件—名主の情報収集—」
平成12年2月1日～3月26日
熊谷地方の野中家文書を中心とした展示
①地域リーダー名主の職務 ②村の危機と名主たち ③情報収集による危機管理(事件と世相、災害の記録) ④情報収集から活用へ
(第38回) 平成12年度第1回収蔵文書展
「子どものための地図教室—彩の国の地図—」
平成12年7月19日～9月10日
児童・生徒を対象とした地図の展示
①地図のいろいろ ②地図の見方・読み方 ③地図にみる埼玉県の移り変わり
(第39回) 平成12年度第2回収蔵文書展
「北埼玉地方の文書 近世・近代を支えた人々」
平成12年10月21日～12月17日
①琴寄村名主・小林官吉 ②忍藩の砲術師範・井狩官太夫 ③文明開化の国際人・清水卯三郎 ④宮大工・三村正利
⑤私立埼玉英和学校の創始者・岡戸文右衛門 ⑥埼玉県書記官・長谷川敬助
(第40回) 平成12年度第3回収蔵文書展
「知事への手紙 明治編」
平成13年1月30日～3月25日
①第2代県令白根多助への手紙 ②第3代県令・知事吉田清英への手紙 ③第4代知事小松原英太郎への手紙 ④第6代知事銀林綱男への手紙 ⑤第7代知事千

家尊福への手紙

(第41回) 平成13年度第1回収蔵文書展・合同葛西用水展

「河川と用水の歴史—埼玉地方の文書—」

平成13年7月21日～9月22日

葛西用水流域の葛飾区郷土と天文の博物館・八潮市立資料館・春日部市郷土資料館・鷲宮町立郷土資料館との合同展示

①埼玉地方の河川と用水 ②葛西用水とその水系(葛西用水、北側用水、権現堂川、南側用水、中郷用水、中島用水、二郷半用水、松伏溜井、庄内古川) ③地域を彩る河川(古利根川、赤堀川)

(第42回) 平成13年度第2回収蔵文書展

「行政情報史の130年—埼玉県設置から電子県庁構想まで—」

平成14年1月26日～3月17日

①埼玉県設置の頃 ②伝える形1・印刷の革新 ③伝える形2・通信の方法 ④伝える形3・県報の創刊 ⑤蓄える形・情報の管理 ⑥広げる形1・出版と広報 ⑦広げる形2・情報の公開 ⑧時を超えて伝える・文書館の役割

(第43回) 平成14年度第1回収蔵文書展

「報道写真にみる戦後の埼玉」

平成14年10月26日～12月15日

埼玉新聞社から寄贈された戦後報道写真のうち、整理の終了した昭和20年代のものを展示

①戦後の混乱を撮る ②世相を撮る ③県政を撮る ④子どもを撮る ⑤文化・スポーツを撮る

(第44回) 平成14年度第2回収蔵文書展

「史料で学ぶ日本の近代—あなたはどのくらい覚えていますか?—」

平成15年1月25日～3月16日

高校教育レベルで取り扱われ近代の歴史事象を示す文書を展示

①開国と幕府の滅亡 ②明治維新と富国強兵 ③立憲国家の成立と日清戦争 ④近代産業の発達 ⑤日露戦争と国際関係 ⑥第一次世界大戦と日本 ⑦恐慌の時代

⑧軍部の台頭 ⑨第二次世界大戦と日本

(第45回) 平成15年度第1回収蔵文書展

「新公開文書にみる埼玉の歴史」

平成15年10月25日～12月14日

前年度に刊行された『諸家文書目録Ⅵ』に収録された21の古文書群を紹介

①後北条氏支配の終焉 ②江戸開府 ③武蔵国岡部藩 ④栗橋(房川渡中田)関所 ⑤幕末から明治へ ⑥近代における地方自治と政治 ⑦日本煉瓦にみる近代産業の夜明け ⑧教科書にみる戦中戦後

(第46回) 平成15年度第2回収蔵文書展

「彩の国の教育史」

平成16年1月24日～3月14日

県行政文書を中心に近代教育を展示

①江戸時代の庶民教育 ②近代の教育方針 ③師範学校の創立 ④多様な学校の設立 ⑤旧制浦和高等学校創設 ⑥軍靴の音が ⑦休題 ⑧戦後、そして現代へ

(第47回) 平成16年度第1回収蔵文書展

「埼玉国体メモリアル写真展—37年前の感動をもう一度—」

平成16年9月18日～11月28日

第59回埼玉国体の開催に合わせ、第22回埼玉大会を戦後報道写真で再構成

①盛り上がる国体の準備 ②埼玉国体夏季大会 ③埼玉国体秋季大会 ④身障者スポーツ大会 ⑤埼玉国体の食事・宿舎 ⑥高度経済成長の中で ⑦37年前のくらし

(第48回) 平成16年度第2回収蔵文書展

「時代をかたるメディア—文書館の近代雑誌—」

平成17年1月22日～3月13日

収蔵古文書に含まれる近代雑誌類を展示

①公報をかたる ②政治をかたる ③産業をかたる ④教育をかたる ⑤文芸をかたる ⑥くらしをかたる

(第49回) 平成17年度第1回収蔵文書展

「安政の大地震150年—武蔵東部の被災状況と震災情報の伝播—」

平成17年10月22日～12月11日

- ①10月2日の夜、地震発生 ②武蔵東部地域における被災状況 ③領主の江戸屋敷再建と村々の負担 ④伝えられる江戸の震災情報

(第50回) 平成17年度第2回収蔵文書展

「親子で学ぶ 埼玉近現代の災害—被害のようすと県のはたらき—」

平成18年1月21日～3月12日

- ①災害はどんなところにおきているの？
②さいたまの災害（水害、地震、伝染病、公害） ③災害に備えるために—県のと
りくみ—

第51回収蔵文書展

「県文化財指定記念 埼玉県行政文書が語る80年—明治・大正・昭和—」

平成18年10月21日～12月24日

県行政文書の県指定文化財指定記念展示
①行政文書とは（行政文書の仕組み・一件文書、行政文書の保存・文書保存規則等） ②行政文書が語る80年（県政の文書、地域の文書、教育・文化の文書、産業の文書、土木の文書） ③行政文書の活用（県や市町村の自治体史、埼玉県史料叢書）

第52回収蔵文書展

「郡役所・半世紀の光芒—郡長たちのアーカイブズ—」

平成19年1月20日～3月11日

- ①近代郡制度の誕生 ②埼玉県の郡役所設置 ③自治体としての郡制 ④郡役所の役割と仕事 ⑤郡役所の廃止 ⑥郡役所文書の行方 ⑦郡長たちのアーカイブズ

(3) その他

1 「埼玉県立文書館（新館）落成記念文書展」

昭和58年6月1日～7月1日

各文書群から代表的な1点を選び展示

- ①中世の文書 ②近世の文書（武家文書、寺社文書、村方文書—土地と年貢・戸口・水利と治水・村落の概観・法令と村政・鷹場・産業・交通・災害・家・文化）

- ③近代の文書（官庁文書、個人団体の文書）

2 エントランス・ポーチ床面彫刻設置記念「絵図と地図にみる”埼玉県の成立”—国絵図から県地図へ—」

昭和62年11月14日～11月29日

- ①国絵図から県地図へ ②武蔵国—絵図の世界 ③廃藩置県—略図・入間県、熊谷県 ④現在の姿へ—実測管内図の利用 ⑤文書に県印をみる

3 特別公開「新・埼玉県指定文化財の古文書」

平成8年5月11日～5月19日

新指定の収蔵中世文書5件を展示

- ①赤堀文書 ②三戸文書 ③平岩文書 ④長谷部家文書 ⑤明星院文書

4 テーマ展「みる・よむ・しらべる彩の国の文書」

平成8年6月1日～9月1日、12月1日～12月22日

本館に収蔵されている文書や地図の概要とそれらが伝えられてきた背景などを紹介し、常設展示化をめざした展示。構成は同名の第31回収蔵文書展とほぼ同じ。

5 特集展示「中世文書の世界—複製資料にみる人物と書—」

平成13年10月20日～11月25日

コロタイプ製版で全国から収集した埼玉関係中世文書を発給者ごとに展示

- ①足利家（関係）の人々と書 ②上杉家（関係）の人々と書 ③後北条家（関係）の人々と書 ④豊臣家（関係）の人々と書

文書館報 目次総索引

■文書館報 創刊号 (1972)

タイトル	執筆者	頁
文書館事業の概要		1 - 2 p
収蔵文書一覧		3 - 4 p
収蔵文書概要		5 - 7 p
埼玉県行政文書・刊行資料一覧		8 p

■文書館報 第2号 (1973)

タイトル	執筆者	頁
本年度事業の概要		1 - 3 p
昭和47年度収蔵文書一覧		3 p
史誌編さん事業と文書館		4 - 5 p
収蔵文書の概要 (その2)		6 - 7 p
マイクロフィルムの紹介		7 - 8 p

■文書館報 第3号 (1976)

タイトル	執筆者	頁
本年度事業の概要		1 - 2 p
埼玉県市町村史編さん連絡協議会		3 p
幕府職制上における伊奈氏の位置	本間 清利	4 - 5 p
古文書緊急調査中間報告		6 - 7 p
新収蔵文書の一覧 (続)		8 p
収蔵史料の概要 (その3)		9 - 11 p
既刊刊行物一覧(2) ・昭和50年度本館主催文書展		12 p

■文書館報 第4号 (1977)

タイトル	執筆者	頁
本年度事業の概要		1 - 2 p
東京大学法学部法制史資料室所蔵埼玉県関係文書目録		3 - 5 p
収蔵史料の概要 (その4)		6 - 7 p
新収蔵文書の一覧 (続)		8 p
古文書緊急調査一秩父郡・市調査		8 - 9 p
歴史資料保存利用機関連絡協議会について		9 - 10 p
市町村行政文書保存状況調査の結果について		10 - 11 p
利用者の声		11 - 12 p
昭和51年度刊行物一覧・本館主催文書展		12 p

■文書館報 第5号 (1978)

タイトル	執筆者	頁
埼玉県立文書館にのぞむ	佐久間 好雄	1 p
本年度事業の概要		1 - 2 p
収蔵史料の概要		3 - 5 p
古文書所在確認調査報告		6 - 9 p
マイクロフィルム		9 - 11 p
新収蔵文書の一覧・昭和52年度刊行物一覧・本館主催文書展		11 - 12 p

■文書館報 第6号 (1979)

タイトル	執筆者	頁
公文書の保存に思う	竹内 克好	1p
本年度事業の概要		1-3p
収蔵史料の概要		3-5p
新収蔵文書の一覧		5p
埼玉県関係新聞資料目録		6-7p
近世後期における一村落的動向—武蔵国小久喜村の場合	重田 正夫	8-11p
昭和53年度刊行物一覧・本館主催文書展		12p

■文書館報 第7号 (1980)

タイトル	執筆者	頁
文書館の一つの役割	田代 脩	1p
本年度事業の概要		1-3p
収蔵史料の概要		3-5p
埼玉県関係新聞資料目録(2)		6-7p
河原井沼新田の開発	新井 敏雄	8-11p
比企郡都幾川村小室家文書調査概報		12-14p
県内寺院聖教文書遺品調査		15p
新収蔵文書一覧		15p
昭和54年度刊行物一覧・本館主催文書展		15-16p

■文書館報 第8号 (1981)

タイトル	執筆者	頁
埼玉県立文書館への期待	原島 陽一	1p
本年度事業の概要		2-3p
収蔵史料の概要		3-5p
近世初期の武蔵国東部低地における貢租動向 —平須賀村年貢割付状の検討を通して	坂田 英昭	6-9p
小川町西光寺所蔵の禪籍2点—「龍洲文海下語」「天嶺吞補下語」	広瀬 良弘	10-14p
県内寺院聖教文書遺品調査概報		14-15p
新収蔵文書一覧・昭和55年度刊行物一覧・本館主催文書展		15p

■文書館報 第9号 (1982)

タイトル	執筆者	頁
将来の文書館像	宇高 良哲	1p
本年度事業の概要		2-3p
収蔵史料の概要		3-5p
歴史資料としての公文書	森 連	6-9p
真義真言宗と法流—県内寺院聖教文書遺品調査を通して	徳永 隆宣	10-16p
県内寺院聖教文書遺品調査概要		16-17p
新収蔵文書一覧・昭和56年度刊行物一覧・本館主催文書展		17p

■文書館報 第10号 (1983)

タイトル	執筆者	頁
情報公開と文書館	岡田 博	1-2p
本年度事業の概要		2-3p
収蔵史料の概要		4-5p
新館建設の経過と概要		6-9p
埼玉県関係雑誌資料目録		10-11p
地図の収集について		12p
県内寺院聖教文書遺品調査概要		13-15p
新収蔵文書一覧・昭和57年度刊行物一覧・本館主催文書展		15p

文書館紀要 目次総索引

■文書館紀要 創刊号 (1985)

論文名	執筆者	頁
御朱印寺社領の成立過程—武蔵国(埼玉県)の場合	重田 正夫	1—66p
埼玉県における地籍図の作成	泊 善三郎	67—85p
行政文書整理試論—総目録第2集を編集して	原 由美子	86—112p
明治期行政文書における船橋関係書類—利根川通妻沼村地先船橋架設	青木 久夫	113—119p
文書のカラー撮影における諸問題—ストロボによる撮影を実践して	栗田 亨	120—130p
本館における教育普及活動—古文書解説講座・講習会	小暮 利明	131—140p
中性紙化を考える	松田 勝伸	141—143p

■文書館紀要 第2号 (1987)

論文名	執筆者	頁
元禄期旗本知行所の年貢—武州入間郡赤尾村大久保氏の事例	重田 正夫	1—31p
近世後期の名主日記について—林信海日記の紹介	小暮 利明	32—64p
近代における地方行政文書保存関係資料1—埼玉県郡市町村の場合	原 由美子	65—101p
文書館関係文献目録稿(昭和54年1月～昭和61年3月)	佐原 和久 石川 久美子	102—123p

■文書館紀要 第3号 (1989)

論文名	執筆者	頁
足利高基の花押について—初出文書と高氏時代の花押を中心に	武井 尚	1—4p
茶道史の一こま—天正18年10月豊臣秀吉湯山阿弥陀堂茶会について	森田 雄一	5—8p
安保菅沼定盈考	長谷川典明	9—18p
近世史料にみる憑き物「オーサキ狐」の諸相	小池 信一	19—37p
近世後期における—地主の米穀販売 —下総国葛飾郡上金崎村土生津家の経営帳簿より	重田 正夫	38—55p
近代における地方行政文書保存関係資料2—埼玉県行政文書の分類基準1	原 由美子	56—79p
収集地図の整理に向けて	佐原 和久	80—91p
文書館施設のサイン装置 —エントランス・ポーチ床面彫刻設置事業を通しての雑感	太田 富康	92—105p

■文書館紀要 第4号 (1990)

論文名	執筆者	頁
小室家の中世文書—「屋代典憲氏所蔵古文書之写」について	武井 尚	3—11p
文政改革における小川村組合の編成と先行する組合村 —大野村・大塚村・野原村の史料を中心として	太田 富康	12—32p
近世史料にみる狐憑きの俗信	小池 信一	33—41p
稲生家所蔵勢州桑名城引渡関係文書について —幕府使番稲生七郎右衛門正興・桑名城主松平下総守忠堯の城引渡関係文書を中心に	児玉 典久	42—66p
維新期の食売下女—明治三年武蔵国本庄宿の事件の紹介	森田 雄一	67—78p
明治期埼玉県教育小史—訓導免職事件と教員養成・確保問題について	白田 勝美	79—90p
近代における地方行政文書保存関係資料3—埼玉県行政文書の分類基準2	原 由美子	91—127p
行政文書添付地図の類型化—明治期・大正期を中心に	佐原 和久	128—139p
国勢調査から見た県北市町村の人口の動き—熊谷市を中心に	須長 宣久	140—149p

■文書館紀要 第5号 (1991)

論文名	執筆者	頁
近世前期武蔵幕領における伊奈氏の徴租法と年貢取取 —秩父郡太田部村・葛飾郡下野村・平須賀村の事例	児玉 典久	1—23p
ペリー来航期における農民の黒船情報収集—武蔵国川越藩領名主の場合	太田 富康	24—54p
埼玉県土木行政関係資料1—土木課事務内容の変遷について	白田 勝美	55—67p
歴史資料の保存及び利用に向けて—規程整備の経緯	須長 宣久	68—86p

■文書館紀要 第6号 (1992)

論文名	執筆者	頁
戦国期関東における本山派修験の勢力伸長について —幸手不動院を事例として	新井 浩文	2—15p
封建領主階級の解体と旧領主階級の近代的投資家への転化過程 —幕末維新时期における旗本稲生家の動向と帰趨	児玉 典久	16—39p
明治中期埼玉県内私設鉄道敷設計画について —第二次鉄道熱期と「幻の鉄道」	白田 勝美	40—54p
明治十年代秩父郡「生糸一斤の価」を探る—あるレファレンス・サービス	内田 雅寛	55—62p
当館収蔵文書に含まれる書籍の目録作業進行状況と課題	長谷川 宏	63—89p
埼玉県立文書館収蔵近代雑誌目録	井上 涼子	90—117p

■文書館紀要 第7号 (1994)

論文名	執筆者	頁
栃木県佐野市所在「嶋田家文書」について	武井 尚 新井 浩文	2—30p
幕藩制解体期における旗本支配の対応と特質 —幕府・旗本権力構造と六〇〇石(小身)旗本森川家の知行所支配	児玉 典久	31—55p
「熊谷蓮性記」にみられる異体字	長谷川 宏	56—84p
埼玉県における市町村行政文書の現状と課題 —市町村行政文書の所在保存実態調査を集計して	白田 勝美	85—99p
東京地方裁判所司法資料見学記	芳賀 明子	100—108p

■文書館紀要 第8号 (1995)

論文名	執筆者	頁
文書の保存と史料の保存—文書規程と文書館条例・管理規則	栗山 欣也	2—15p
古文書史料の保存と利用—当館における保存・利用をめぐる	新井 浩文	16—34p
地口と狂歌の文学—近世後期北武蔵地方庶民の身辺から	長谷川 宏	35—60p
明治期行政文書原本保全事業について	谷澤 道子	61—81p
歴史資料と情報処理技術の導入—パソコンを使用した資料の整理	佐藤 幸広	82—91p
失われた行政文書—戦中・終戦時における行政文書の廃棄について	芳賀 明子	92—99p
文書館所蔵の「埼玉県管内荒川平面図」について	河田 重三	100—109p

■文書館紀要 第9号 (1996)

論文名	執筆者	頁
史料の保存と活用—図書館・博物館そして文書館	栗山 欣也	2—16p
行政文書の劣化状態調査について—起案用紙の劣化を中心に	新井 浩文	17—35p
文書館所蔵の「荒川提外地調査平面図」について	河田 重三	36—46p
近世史料に見るいま使われていない語彙と表記法の事例	長谷川 宏	47—72p
埼玉県関係古文書旧郡村名等目録(目録刊行分)		I—IXp

■文書館紀要 第10号 (1997)

論文名	執筆者	頁
地誌調出役の現地調査行程	白井 哲哉	3—12p
収蔵地図の社会科学習における利用についての一考察 —三郷市に関する地図を中心に	河田 重三	13—24p
「府県史料」編輯期における記録と編輯の職制 —秋田・埼玉両県の比較レポート	太田 富康	25—46p
明治前期埼玉の外国人に関する史料について —埼玉県外事関係行政文書を中心に	芳賀 明子	47—103p

■文書館紀要 第11号 (1998)

論文名	執筆者	頁
前田育徳会尊経閣文庫所蔵別府文書の紹介 —「正応六年四月廿一日付関東下知状」について	武井 尚	2—6p
小室家文書所収の中世文書 —『工村々舎叢書』所収「内山氏古文書写」について	新井 浩文	7—28p
「府県史料」の性格・構成とその編纂作業	太田 富康	29—68p
文書館普及活動における二つの試み	白井 哲哉	69—86p
史料をみる眼—文書館実務雑感	原 由美子	87—94p

■文書館紀要 第12号 (1999)

論文名	執筆者	頁
近世初期上武幕領における伊奈氏の年貢徴収政策とその後の変遷(1)	小澤 正弘	2—46p
明治前期埼玉の外国人に関する史料について・補遺—埼玉の雇外国人	芳賀 明子	47—62p
埼玉県商品陳列所の県外活動	橋本 栄	63—72p
文書館の利用と活用—博学連携の視点から	岡田 英行	73—86p
都道府県史料協の成果と課題 —埼玉県地域史料保存活用連絡協議会の最近の活動から	新井 浩文	87—99p

■文書館紀要 第13号 (2000)

論文名	執筆者	頁
特集・文書館の30年 part 1 県立図書館文書課及び文書部の時代		1p
構成と概要		2—5p
吉本富男元館長オーラル・ヒストリー1 文書館創造のころ		6—23p
森末義彰氏文書館落成記念講演原稿 史料保存の現状と将来		24—30p
文書館沿革資料1		31—91p
年表1		92—94p
紹介文献1		95p
研究 近世初期上武幕領における伊奈氏の年貢徴収政策とその後の変遷(2)	小澤 正弘	97—150p

■文書館紀要 第14号 (2001)

論文名	執筆者	頁
特集・文書館の30年 part 2 独立、そして新館の時代		
構成と概要		1—2p
吉本富男元館長オーラル・ヒストリー2 文書館発展のころ		3—11p
文書館沿革資料2		12—101p
年表2		102—109p
紹介文献2		110—111p
統計資料		112—119p

■文書館紀要 第15号 (2002)

論文名	執筆者	頁
小特集 公文書館専門職員養成課程修了研究論文		
情報伝達体としてのアーカイブズ及び文書館 —情報伝達機能的観点からの再整理	太田 富康	3—19p
埼玉県における近代県庁文書の編纂と保存 —知事官房文書編纂主任の起案から	芳賀 明子	20—38p
文書館における民間所在資料(古文書)の取り扱いをめぐって	新井 浩文	39—54p
研究ノート		
文久2(1862)年の麻疹流行に伴う麻疹絵の出版とその位置づけ	加藤 光男	55—70p
天保期における幕府代官の廻状伝達 —下総国葛飾郡上金崎村「御用留」を中心に	兼子 順	71—87p
房川渡中田関所改方制度の変遷—足立家文書より	石岡 康子	88—118p

■文書館紀要 第16号 (2003)

論文名	執筆者	頁
閲覧者から見た文書館—その変遷と現状	原 由美子	2—16p
東大阪市専宗寺所蔵岩付太田氏関係文書について	新井 浩文	17—37p
職員履歴と達書にみる大宮県の成立とその展開	岸 清俊	38—64p
埼玉県における旧町村役場の文書整理とその実態 —埼玉県比企郡大河村役場文書を事例として	兼子 順	65—85p

■文書館紀要 第17号 (2004)

論文名	執筆者	頁
医療の「近代化」と在村医—入間県を事例に	細野 健太郎	2—16p
府県統廃合と文書移管—明治九年の熊谷県分割をめぐって	芳賀 明子	17—37p
「評議録」にみる創業期の日本煉瓦製造株式会社	井上 かおり	38—57p
〈史料紹介〉書簡にみる初期埼玉県政—県令白根多助と書記官吉田清英	佐野 久仁子 長島 小夜香	58—77p

■文書館紀要 第18号 (2005)

論文名	執筆者	頁
東国内乱期における安保氏の立場について —常陸国下妻荘小嶋郷の宛行と還補をめぐって	森内 優子	2—12p
埼玉県における皇国地誌の編輯過程	重田 正夫	13—46p
〈史料紹介〉県令白根多助への書簡—群馬県令梶取素彦と埼玉県官から	芳賀 明子	47—58p
個人情報と閲覧利用—埼玉県立文書館における指定文書制度の紹介を通じて	白井 哲哉	59—80p
文書館図書資料データベース化事業について—専門図書群の収集と整理	原 由美子 関 信子	81—102p

■文書館紀要 第19号 (2006)

論文名	執筆者	頁
小特集「埼玉 古地図を読む」		
近世中期の新田開発と検地絵図—武蔵国大里郡樋口村の原地新田を事例に	白井 哲哉	3—14p
近世後期の葛西用水八条領組合の組織的変遷と地域意識	工藤 航平	15—25p
武蔵国における天保国絵図の調査過程	重田 正夫	26—49p
〈平成17年度第1回収蔵文書展実施成果報告〉 安政2年(1855)の大地震時における武蔵東部地域の動向	加藤 光男	50—71p
〈平成16年度公文書館専門職員養成課程修了研究論文〉 埼玉県立文書館のホームページについて	森内 優子	72—94p

■文書館紀要 第20号 (2007)

論文名	執筆者	頁
〈普及事業のあゆみ—収蔵資料の紹介と社会との連携をめざして—〉 埼玉県立文書館における学校連携事業の在り方 —小・中学校との連携を中心に	三田 博	2—25p
今までの地図教室を振り返って	内藤 ふみ	26—29p
展示と紀要のあゆみ—調査研究としての普及活動の取り組み		
(1) 収蔵文書展のあゆみ		30—40p
(2) 文書館報・文書館紀要 目次総索引		41—46p
〈研究レポート・論文〉		
府県公文書管理史ノート—埼玉県と比較しながら	重田 正夫	47—67p
近代行政文書における「文書」と「記録」 —職制規程にみる明治期埼玉県庁の場合	太田 富康	68—81p
近代小学校の成立過程と地域社会 —地域指導者層による郷学所体制維持運動とその終焉	工藤 航平	82—108p